

令和7年度 水素モビリティ・ステーション普及加速化総合支援事業 アンケートご参考資料

水素モビリティ・ステーション 普及加速化総合支援事業について

東京都は、「水素モビリティ・ステーション普及加速化総合支援事業」を通じ、事業者の皆様による水素モビリティの導入を後押しするとともに、燃料補給の拠点となる水素ステーションの整備を一体的に支援し、東京での水素社会の実現を力強く推進してまいります。

脱炭素社会で選ばれる企業になるために、企業と東京が連携し、共に取り組んでまいりましょう。



詳しくはWEBをご覧ください

<https://h2mobi.metro.tokyo.lg.jp/>



水素ステーションの状況

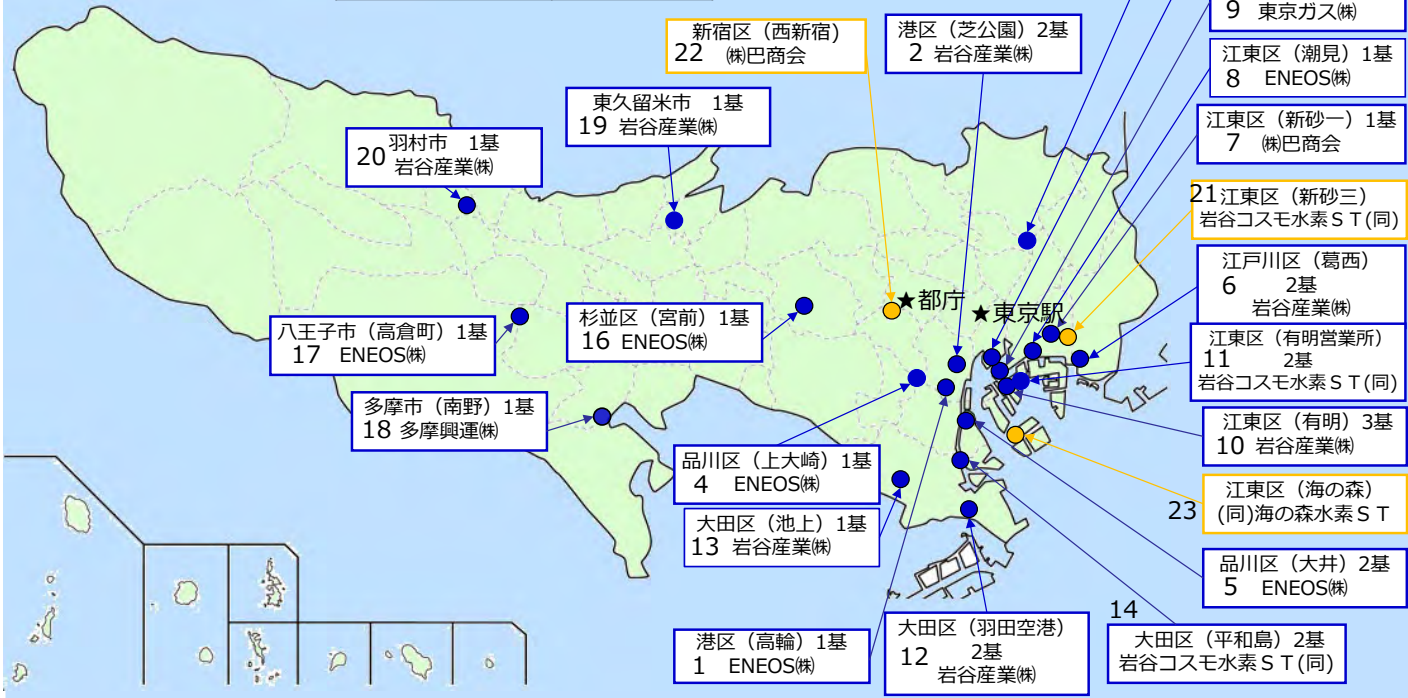
都内水素ステーションの整備促進

2025年9月現在30基整備

凡例

商用車対応 S T	●
計画中 S T	●

時期	商用車対応 基数
25年9月（現在）	30基
計画中	5基



ステーション名称	所在地	電話番号
1 東京高輪ゲートウェイ水素ステーション	東京都港区高輪三丁目27番78号	03-6721-7920
2 イワタニ水素ステーション芝公園	東京都港区芝公園4-6-15	03-5425-1835
3 東京晴海水素ステーション	東京都中央区晴海五丁目2番12号	03-5859-0268
4 東京目黒水素ステーション	東京都品川区上大崎2丁目21番18号	03-6417-4246
5 東京大井水素ステーション	東京都品川区八潮一丁目2番2号	03-6412-9977
6 イワタニ水素ステーション東京葛西	東京都江戸川区臨海町1-1-41	070-2900-4371
7 新砂水素ステーション	東京都江東区新砂1-7-9	03-6458-6921
8 Dr.Driveセルフ潮見公園店水素ステーション	東京都江東区潮見1-3-2	03-6666-2236
9 豊洲水素ステーション	東京都江東区豊洲6丁目5番27号	03-5534-8521
10 イワタニ水素ステーション東京有明	東京都江東区有明1-5-8	03-6380-7284
11 岩谷コスモ水素ステーション有明自動車営業所	東京都江東区有明3-9-25	090-1816-9332
12 イワタニ水素ステーション羽田空港	東京都大田区羽田空港1丁目1番4号	070-2900-4372
13 イワタニ水素ステーション 東京池上	東京都大田区池上8-16-5	03-6410-4356
14 岩谷コスモ水素ステーション平和島	東京都大田区平和島 2 - 1 - 1	080-5282-3949
15 千住水素ステーション	東京都荒川区南千住3-28-1	03-5604-8175
16 東京杉並水素ステーション	東京都杉並区宮前1-17-10	03-5941-5503
17 八王子高倉水素ステーション	東京都八王子市高倉町48-3	042-649-4091
18 TKK水素ステーション	東京都多摩市南野1-2-3	042-319-3677
19 イワタニ水素ステーション東京東久留米	東京都東久留米市柳窪1-10-57	070-7813-0537
20 イワタニ水素ステーション東京羽村	東京都羽村市緑ヶ丘3-1-1	070-7819-6655
21 岩谷コスモ水素ステーション新砂	東京都江東区新砂3-2-8	計画中
22 西新宿水素ステーション	東京都新宿区西新宿4丁目	計画中
23 海の森水素ステーション	東京都江東区海の森1-3-4	計画中

※ 出典：一般社団法人次世代自動車振興センター

CO2を排出しない、グリーンなエネルギーである「水素」は脱炭素社会実現の切り札です

水素は、燃焼や化学反応させることでエネルギーとして使うことができ、多様な分野のエネルギーの脱炭素化に貢献します。運輸分野では輸送車両の燃料として、既に商用化されている燃料電池自動車・バスだけでなく、将来は大型の船や航空機などでも活用が期待されています。電力としては、将来大規模な発電所で直接水素を燃焼する「水素発電」や再生可能エネルギーを貯蔵する「水素蓄電」、熱エネルギーの脱炭素化においても水素は有望な候補です。今後は業務・家庭分野の熱需要、さらには電化が困難な産業分野における高温の熱源としても活用がすすめられる予定です。

水素エネルギーの普及拡大に向けた東京都の取組について

2050年の目指す姿

●グリーン水素

グリーン水素が本格活用され、再エネの大量導入を支えている。



グリーン水素活用施設 ©東京エネルギーシステムズ(株)

※グリーン水素 = 再エネ由来の電力で水を電気分解し、CO2を排出せずに生成される水素

●運輸分野

グリーン水素が大型車両や船舶、航空機などの輸送機器の燃料として活用されている。



水素航空機のイメージ図 ©川崎重工(株)

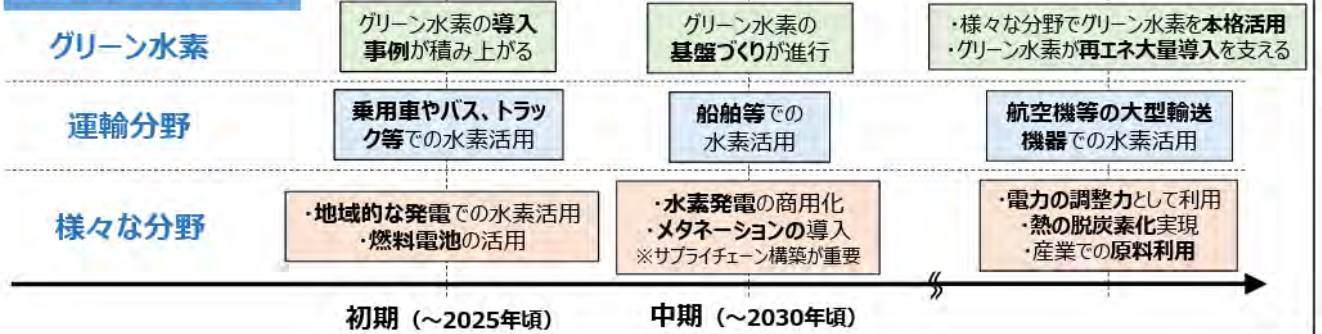
●様々な分野 (発電、産業、業務・家庭)

水素発電、熱需要 (メタネーション等)、産業での原料利用にグリーン水素が活用されている。



水素製造・貯蔵・発電実証設備イメージ図 ©三菱重工(株)

中長期的な見通し

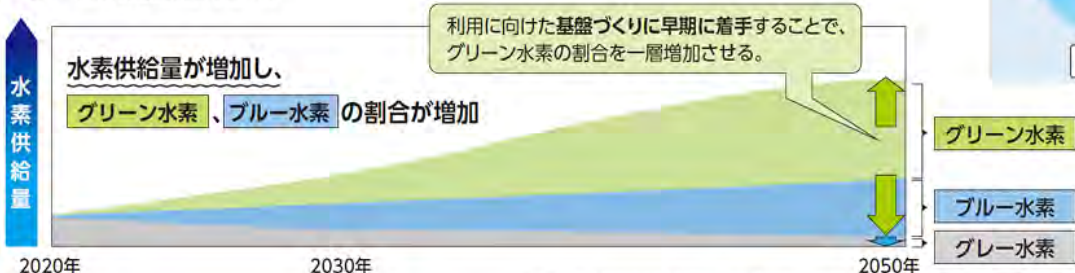


- 2050年の脱炭素社会では、様々な分野でグリーン水素が本格活用され、運輸や様々な分野の脱炭素化に貢献
- 2030年に向けては、グリーン水素の本格活用に向けた基盤づくりと、水素需要の拡大・社会実装化の加速が必要



技術開発、コスト低減、サプライチェーン構築の好循環

■グリーン水素拡大のイメージ



■ 商用水素モビリティ導入のメリット

- ・水素を燃料とする燃料電池車は**走行時にCO2を排出せず**、排出されるのは水のみのため自社の脱炭素化に有効。
- ・電気自動車より充填時間が短い。水素の**充填時間※1**は小型トラックで15分程度、大型トラックで15～30分程度。
- ・小型トラックで約260km、大型トラックで約650kmとEVトラックに比べて**航続距離※2**が長く、**長距離輸送に適する**。
- ・**低騒音、低振動が燃料電池車の特徴**のため、早朝深夜の周辺環境への配慮や荷物破損等の課題の解決に有効。

■ 商用燃料電池（FC）車両のご紹介

FC小型トラック（現行モデル）



燃料	高圧水素（70MPa）	全長	6,700mm
燃料タンク	高圧水素タンク 10.5kg	全幅	2,200mm
航続距離※2	260km	全高	3,100mm
駆動方式	4 x 2（後輪駆動）	ホイールベース	3,395mm
出力	109kW	最大積載量※3	2,950kg
定員	3名	車両総重量	7,490kg

FC大型トラック（高床3軸）



燃料	高圧水素（70MPa）	全長	11,990mm
燃料タンク	高圧水素タンク 50kg	全幅	2,490mm
航続距離※2	650km	全高	3,780mm
駆動方式	6 x 4（後輪駆動）	ホイールベース	3,395mm
室内長※3	8,900mm	最大積載量※3	11,600kg
定員	2名	車両総重量	25,000kg

架装：ドライバン/ウイングバン（トランテックス製）

- ※1 充填時間：水素ステーションの能力によって変動 ※2 航続距離：積載や走行条件等によって変動
 ※3 最大積載量・室内長：架装仕様によって変動

■ 商用水素モビリティの普及拡大に向けた国と東京都の支援（補助金）について

燃料電池等トラックの導入促進

実績

- 燃料電池小型トラック **124台（2024年度末時点）**
- 燃料電池大型トラックは**2025年度以降に導入開始予定**

- *自動車メーカーや荷主・物流事業者等による社会実装プロジェクトに参画・連携
- *目標：小型トラック約3,600台、大型トラック約500台（2030年度末時点）



燃料電池小型トラック



燃料電池大型トラック

● 導入費支援

【基本補助】

国補助と合わせて**同等仕様のディーゼルトラックと車両本体価格（中小企業は車両リース価格）が同額**になるよう支援

- ・FC小型トラック：**上限1,300万円（中小企業は上限2,600万円）**
- ・FC大型トラック：**上限5,600万円（中小企業は上限9,600万円）**

【改造費支援】水素エンジントラックへの改造費用から国補助額を除いた額に2/3をかけた額（**上限1,100万円**）

【上乗せ補助】①**5年5台***以上の導入計画書、または、②**営業所等への水素ST整備**の場合に上乗せ支援

- ・FC小型トラック：基本補助と合わせて**3,400万円** ・FC大型トラック：基本補助と合わせて**1億1,500万円**
- ・水素エンジントラック：**1,100万円**

*FCトラックと水素エンジントラックの合計計画台数、中小企業は3台以上、大企業はFC大トラを含まない場合は10台以上

● 燃料費支援

※補助上限額は、毎年度軽油との価格差を踏まえて、改定

水素燃料費の実費に対して**軽油との燃料費差**を支援

- ・FC小型トラック：**上限900万円** ・FC大型トラック：**上限2,880万円** ・水素エンジントラック：**上限1,200万円**